

第6章 計画の推進

○計画の推進にあたっての連携体制、推進体制

支援を必要とする家庭に育つ子どもやその家庭への支援は、多岐に渡ります。また、現在は、個別の課題に対する支援の中で連携した対応を行っていますが、支援機関各々の役割や取組内容の相互理解、関係者間での個人情報共有など、連携にあたっての基盤や仕組みが不十分な場合もあります。

また、子ども・子育て支援においては、乳幼児期からの子どもの育ちを長い目でとらえ、子どもの発達や個々の特性に応じて、包括的・継続的な支援を行うことが求められています。

そのためには、個別課題に対応する支援の実施主体が連携し、重層的な支援体制を構築するための基盤づくりや仕組みづくりを一層進めていく必要があります。

計画の推進にあたり、きめ細かで具体的な支援を展開するためには、地域の主体的な取組や民間と連携した取組を進めていくことや、市民一人ひとりが子どもの貧困に対する理解を深め、それぞれができることから取り組むことが重要です。

例えば、食事の提供を含む子どもの居場所や高校生への地域等による学習支援等の新たな支援策、団体や民間企業等新たな支援の担い手や、すでに行われている支援機関・団体と県立・市立高校との連携等の取組手法、アウトリーチによる支援等についても、地域の自主的な取組や他都市の取組情報収集等を行い、本市の状況を踏まえ検討を進めることが必要です。

こども青少年局、健康福祉局、教育委員会事務局等の関係区局による庁内の連絡会議や、支援者や有識者等による会議の開催により、計画のPDCAサイクルを確保するとともに、関係者間の連携を図りながら総合的な対策を進めます。

○支援に関わる人々の人材育成

子どもの貧困対策は、困難を抱える子ども・若者、家庭を、暮らしの中での気づき、寄り添い、見守る人、相談を受け止めたり、支援につなげたりする人、専門的な支援を担う人など、教育・保育の場、地域、専門機関・行政機関など多くの人が協力したり、役割分担をしながら支えていく取組です。

教育・保育に携わる職員や、専門機関の職員や地域に対しても、すでに様々な人材育成の取組がなされていますが、これまで以上に、子どもの貧困に対する感度や支援のスキルを高めるとともに、「子ども・青少年にとって」の視点に立ち、子ども・若者、家庭と関わっていくことが重要です。

このため、支援に関わる人々に対し、子どもの貧困の現状に対する共通認識や、支援に関わる機関等の持つ役割、活用できる制度や地域の資源等に関する情報を持つ方策等をまとめ、それぞれの制度マニュアルや研修の中に取り入れていくこと等についても、計画推進の中で引き続き検討を進めます。

また、地域において、支援に関わる機関のネットワークづくりや、支援に関わる人を増やす取組が円滑に進むような仕組みづくりについても、計画推進の中で検討を進めます。

○子どもの貧困に関するデータ収集や調査の実施

横浜市では、本計画の策定にあたり、本市の子どもの貧困に関連する事業データを改めて整理するとともに、市民アンケート、対象者アンケート、支援者ヒアリング等の実態把握のための調査を行いました。

計画推進にあたっては、本市の状況の変化や取組の成果等を把握するため、必要なデータの収集を行います。

☆コラム～子ども食堂の取組～☆

経済的な理由で十分な食事をとることができない、夕食を菓子パンやスナック菓子で済ませてしまったり、親の仕事等で一人で食事をしているなど、本市の関係者ヒアリングの中でも、子どもの食を取り巻く状況が確認されました。

また、本市のアンケート調査によると、ひとり親世帯では普段子どもだけでご飯を食べることがあると回答した比率は「よくある」「ときどきある」をあわせると5割近くとなっています。

家庭や学校の他に、地域の中に子どもの居場所を増やして、子どもを地域全体で見守り、子どもの育ちを温かく支えることのできる取組として、近年「子ども食堂」が注目されています。「子ども食堂」は、子どもが一人でも入れる食堂で、無料や低価格で手作りの温かい食事を食べることが出来る場です。子どもに、栄養のバランスのとれた食事をとってもらおうとともに、大人と一緒に料理をしたり、大人数で食卓を囲むことで、「孤食」等の子どもの食をとりまく環境が改善されることが期待されます。また、子どもに寄り添って話し相手となったり、学習支援をするなど、子どもと地域の人が交流する取組を行っているケースも多くみられます。

「子ども食堂」は、NPO法人、市民団体、ボランティアが担い手となって、全国各地に広がりを見せています。2015年には、「こども食堂ネットワーク」という全国的なネットワーク組織が発足し、民間ベースの取り組みとして子ども食堂の運営主体による交流が始まっています。

国や自治体による生活保護制度などのセーフティネットの仕組みに加えて、「子ども食堂」の取組に代表されるような、地域社会で子どもの育ちを見守り支える取組は、支援を必要とする子どもにとって重層的な支援が用意されているという観点からも、今後の広がりが期待されます。